

れた生活の場において、必要な医療・介護サービスが受けられる、在宅医療の拡充が緊急の課題となっている。

この中で、歯科としては口腔ケアを施すことを通して参画することになる。

現在新潟市には、在宅医療ネットワークが14団体あり、その中で西区には「にいがた西区地域連携ネットワーク」と「西区地域口腔見守りネットワーク」があり、演者はその2つの中で活動している。

ネットワークでは、医師・歯科医師・薬剤師・介護支援専門員等多職種の連携が求められ、その中で歯科衛生士にできること、求められることを日々考えさせられている。すなわち、多職種の中で、顔の見える関係→顔の向こう側が見える関係→顔を通り超えて信頼できる関係の構築が必要となる。

歯科衛生士に求められる在宅高齢者に対する「口腔ケア」を地域の歯科医院、そして当診療所の中で、システムとしてどのように根づかせていくか、皆様方に理解していただきどのように協力していただくか、思索する毎日である。

第75回（通算第158回）：2015年6月25日（木）

（座長：平澤明美）

義務教育から推考する 実習指導における一考察

丸山 満（歯科技工士学科）

実習説明は、学生が解りやすく円滑に実習に取り組め、到達目標の設定も併せ持った内容であることが肝要である。

前回、実習説明で理解できない学生は補習で個別対応していることを報告した。しかし、個別対応でも、理解不足のままでは実習に行き詰まり、実習に興味を持てなくなる可能性は否定できない。そこで、実習指導方法を見直すこととした。

現状は、実習開始時から夕方を一つのサイクルとして1日の到達目標としていた。しかし、理解できない学生は実習のつまずきが生じる恐れがあった。それを防ぐ施策として、義務教育における「教育の原理・原則十箇条」を参考に実習指導方法を検討した。

その結果、実習指導におけるPDCAサイクルを“1日”から“一工程毎”に分割し、言葉の短いシンプルで明確な説明とする事で、学生の理解し易さに配

慮した。またそれは、ワーキングメモリが少なくても理解できる実習指導に繋がった。併せて、視聴覚機材を有効に活用することで学生の“視覚”と、教員のデモ模型に触れさせ“触覚”に訴えることでより理解を深めることができると考えられた。

今後もより教育効果が向上する実習指導方法を検討していきたい。

古代エジプトの医師

内田杉彦（歯科衛生士学科）

近代医学の原点とされるギリシア医術が影響力をもつ以前、古代地中海世界において権威を持っていたのは、エジプトの医術であった。約2700年間に及ぶ古代エジプト王朝時代の文字資料には、当時の医術の担い手であった医師たちの名前や肩書きが数多く残されている。彼らのなかには単なる「医師」のほか、医師たちの「長」や「監督官」、王族に仕えた医師などがみられ、階層が存在したことが示されている。また、「眼科医」や「歯科医」のような専門医も存在していた。疾患の治療は、人体の構造や機能についての理解が充分ではなかったため、効果の疑わしい「薬」や呪術に頼らざるを得なかったが、外科治療は観察と経験にもとづいた、当時としては合理的なものであったと言える。

第76回（通算第159回）：2015年7月23日（木）

（座長：山田隆文）

中国歯周病学会参加記

河野正司（明倫短期大学学長）

※詳細については本号総説を参照

第77回（通算第160回）：2015年9月24日（木）

（座長：飛田 滋）

歯冠修復技工学実習における 評価基準の進捗報告

五十嵐雅子（歯科技工士学科）

これまでの実習成績は、各担当教員の採点を平均して評価した。その採点は各担当教員の裁量で行われていたため教員間にバラツキがあり、学生の到達目標が明確にされていなかった。この問題点を解決するために評価基準を検討してきたので経過を報告し